

[成果情報名]早生で着色良好な紫黒色のブドウ新品種「生食ブドウ山梨2号」の開発

[要約]「生食ブドウ山梨2号」は、大粒で着色良好な四倍体の新品種である。成熟期は「巨峰」より10日程度早い。紫黒色の果粒は着色良好で重さは15g程度になる。酸切れが早く食味は優れる。

[担当]果樹試・育種部・生食ブドウ育種科・小林和司

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

山梨県内では、盆前に収穫できる早生品種として「デラウェア」や「紫玉」が栽培されているが、さらに、大粒で食味良好な新品種の開発が求められている。そこで盆前出荷が可能な、本県のオリジナル品種となる早生品種を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 「生食ブドウ山梨2号」は、平成17年に大粒で食味が優れる「ピオーネ」に着色良好な「山梨46号」を交雑して得られた実生から育成した四倍体の品種である。
2. ジベレリン処理により種なし化した果房の成熟期は果樹試験場(標高440m)において、8月上旬で、「巨峰(種なし)」より10日程度早い(表1)。
3. 果皮色は紫黒色で果粒の形は円形である。果粒重は平均15g程度である。糖度は18%程度で、酸切れが早く食味は良好である(表1、図1、2)。

[成果の活用上の留意点]

1. 花穂下部約4cmを用いて房づくりを行い25粒程度に摘粒すると350g程度の果房となる。
2. 種なし化のためのジベレリン処理は「巨峰系四倍体品種」の適用となる。なお、ジベレリンとフルメット液剤の混合液1回処理でも十分に商品性を有した果房になる。
3. 「巨峰」に準じた慣行防除の下では、特に問題となる病害虫の発生は見られない。

[期待される効果]

1. 「巨峰」より10日程度早く成熟する盆前出荷が可能な早生品種として、県内への普及が期待できる。

[具体的データ]

表1 「生食ブドウ山梨2号」の樹体及び果実特性(山梨果樹試 2009～2010年)

品種・系統	樹勢	満開期 (月日)	収穫始 (月日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	果粒形	果皮色 (C.C.)
山梨2号	中	6/4	8/7	370	15.0	円	11.8
紫玉	中	6/5	8/13	355	11.5	倒卵	10.8
巨峰	中	6/5	8/18	478	13.1	倒卵	11.2

(続き)

品種・系統	はく皮の 難易	果肉特性	裂果性	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	香気	渋み
山梨2号	易	中間	無	17.6	0.62	フォクシー	無
紫玉	易	中間	無	18.6	0.66	フォクシー	無
巨峰	易～中	中間	無	18.9	0.60	フォクシー	無

台木・樹齢: 山梨2号(101-14台 4～5年生)、紫玉(101-14台 3～4年生)、巨峰(101-14台 6～7年生)

長梢・棚・種なし栽培(満開時GA25ppm+F5ppm、満開2週間後GA25ppm)

収穫始: 甘味比(糖度/酸含量)が25を超えた時期を目安に収穫した

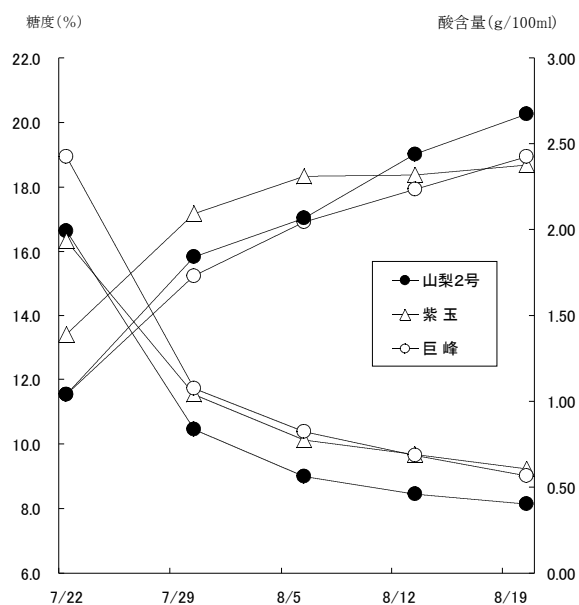


図1 糖度・酸含量の推移(2010年)



図2 「生食ブドウ山梨2号」の果実

[その他]

研究課題名: 早生系オリジナル品種の育成

予算区分: 県単(重点化)

研究期間: 2004年度～

研究担当者: 小林和司、山下浩輝、両角斉彦、猪股雅人